

2017/05/29 (Mon.)

# 1. 結晶格子の基礎と X 線回折の原理

## (a) 結晶格子と逆格子

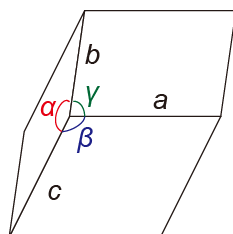
- 結晶：原子が 3 次元に\_\_\_\_\_に並んだもの

1. 繰り返しの周期を代表する点 → \_\_\_\_\_

→ ○すべて\_\_\_\_\_な点

※原子位置である必要はない

2. 結晶の繰り返しの最小単位 → \_\_\_\_\_



↳ 一般的には\_\_\_\_\_である。

→ 3 辺の長さ、各面での 2 辺の角度の計 6 自由度

: \_\_\_\_\_

- 結晶の分類:

7 種類の結晶系 → 基本となる対称操作による分類

※対称操作：回転・鏡映・併進などのうち、\_\_\_\_\_を変えない操作

	辺の条件	角度の条件	基本対称操作
三斜晶	$a \neq b \neq c$	$\alpha \neq \beta \neq \gamma$	なし
単斜晶	$a \neq b \neq c$	$\alpha = \gamma = 90^\circ \neq \beta$	2 回回転
三方晶	$a = b \neq c$	$\alpha = \beta = 90^\circ, \gamma = 120^\circ$	3 回回転
(菱面体晶)	$a = b = c$	$\alpha = \beta = \gamma \neq 90^\circ$	
六方晶	$a = b \neq c$	$\alpha = \beta = 90^\circ, \gamma = 120^\circ$	6 回回転(または 6 回回反)
斜方晶	$a \neq b \neq c$	$\alpha = \beta = \gamma = 90^\circ$	3 つの 2 回回転
正方晶	$a = b \neq c$	$\alpha = \beta = \gamma = 90^\circ$	4 回回転(または 4 回回反)
立方晶	$a = b = c$	$\alpha = \beta = \gamma = 90^\circ$	4 つの 3 回回転

\_\_\_\_\_種のブラベー格子 → 格子点の配列についての分類

\_\_\_\_\_種の空間群 → 結晶の対称操作による分類

## ● 逆格子

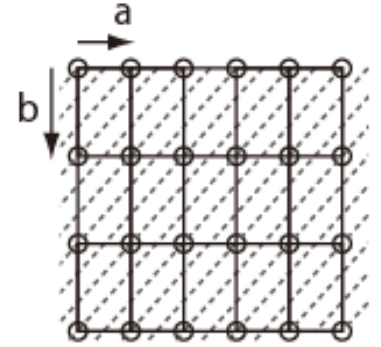
結晶中の原子の繰り返し → 波のように思える

※波の場合: \_\_\_\_\_ベクトルが波の繰り返しの\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_

を規定する。

結晶の場合も同様: ただし、繰り返し周期は\_\_\_\_\_なので、「波数」も\_\_\_\_\_

→ 「波数」の点も\_\_\_\_\_を組む → 逆格子



**逆格子は結晶中の電子や原子振動などの振る舞いを考える上で基本的に重要**

## ● 基本逆格子ベクトル

結晶中の繰り返し間隔(「波長」)には、最大がある: 例 直方晶の場合  $a$  軸方向の最大「波長」は\_\_\_\_\_

→ 逆格子には最小値がある: 基本逆格子ベクトル

結晶の基本ベクトル( $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ ,  $\mathbf{c}$  または  $\mathbf{a}_1$ ,  $\mathbf{a}_2$ ,  $\mathbf{a}_3$ )と逆格子の基本ベクトル( $\mathbf{a}^*$ ,  $\mathbf{b}^*$ ,  $\mathbf{c}^*$  または  $\mathbf{g}_1$ ,  $\mathbf{g}_2$ ,  $\mathbf{g}_3$ )の関係:

→  $\mathbf{a}^*$  は  $a$  方向の最大の繰り返しを持つ「波面 =  $bc$  面」に垂直で、大きさは「波長」 $d_a$  に対して  $2\pi/d_a$

→ 単位胞の体積  $V$  は  $V =$  \_\_\_\_\_

→ ここから  $d_a$  が分かる:  $d_a =$  \_\_\_\_\_

→ 結局、 $\mathbf{a}^* =$  \_\_\_\_\_ ※ただし、 $2\pi$ をつけない定義もある

一般の逆格子ベクトル  $\mathbf{G}_{hkl} =$  \_\_\_\_\_

## ● 格子面

逆格子ベクトル  $\mathbf{G}_{hkl}$  で規定される「波」の「波面」のうち、格子点を通るもの

→  $(hkl)$  の格子面という

→  $(hkl)$  を \_\_\_\_\_ 指数という

## ● 格子面の性質(よく教科書とかに書いてあるやつ)

(1) 一つの  $(hkl)$  に対応する格子面は無数に存在する

(2)  $h, k, l$  が大きいほど「波数」 $|\mathbf{G}_{hkl}|$  は大きい → 格子面(波面)の間隔  $d_{hkl}$  は\_\_\_\_\_

「波数」 $|\mathbf{G}_{hkl}|$  と格子面間隔  $d_{hkl}$  の関係: \_\_\_\_\_ 【重要!】

c.f. 波の波数と波長の関係

(3)  $\mathbf{G}_{hkl}$  と格子面は常に\_\_\_\_\_。

(4) 実空間との対応

$n$  番目の  $(hkl)$  格子面上の点  $r$  の満たす方程式は

$$(r - r_n) \cdot G_{hkl} = 0, \text{ ただし } r_n = nd_{hkl}\hat{g}_{hkl}, \hat{g}_{hkl} = G_{hkl}/|G_{hkl}|$$

→ \_\_\_\_\_

→ ある格子点を原点として  $a$  軸と  $n = 1$  の格子面がどこで交わるかを

求めるには、 $r = pa$  とおいて、 $p =$  \_\_\_\_\_ と求められる

→ 結局、 $(hkl)$  格子面は

①  $a$  軸上の、原点から \_\_\_\_\_ の位置

②  $b$  軸上の、原点から \_\_\_\_\_ の位置

③  $c$  軸上の、原点から \_\_\_\_\_ の位置

をそれぞれ通る。

(5)  $h, k, l$  が互いに素であれば、すべての  $(hkl)$  格子面は格子点上を通る。そうでない場合は、 $h, k, l$  を最大

公約数  $p$  で割った格子面  $(h/p \ k/p \ l/p)$  の  $1/p$  の面間隔になっている。

#### 【練習問題 1】

YBCO の結晶構造は斜方晶です。斜方晶の場合の  $a, b, c, a^*, b^*, c^*, d_{hkl}, |G_{hkl}|$  の間の関係式を求めてみましょう。

## 【練習問題 2】

格子定数の文献値  $a = 3.8210 \text{ \AA}$ ,  $b = 3.8826 \text{ \AA}$ ,  $c = 11.6720 \text{ \AA}$  (添付の資料も参照) を用いると、 $d_{hkl}$  や  $2\theta_{hkl}$  の値を計算する。計算で出てきた  $2\theta_{hkl}$  の近くにあるピークが  $hkl$  のピークだとして、格子定数を算出できる。

$hkl$	$2\theta_{hkl}$ (計算)	$2\theta_{hkl}$ (実験)	格子定数
001			$c =$
002			$c =$
100			$a =$
010			$b =$

※ このように、ひとつのピークから格子定数を決めるのではなく、全ピークを Fitting して決める方法がある。

→ 後日チャレンジ

## (b) 結晶格子による X 線の回折

### ● 回折の条件

結晶格子に X 線が入射する → \_\_\_\_\_ が満たされたときに強い回折が起きる

実空間版 : \_\_\_\_\_

逆格子空間版: \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ 条件ともいう)

→ X 線の \_\_\_\_\_ が逆格子ベクトル( $hkl$ )に等しい ~ \_\_\_\_\_ 保存に似ている

※この条件は伝導電子のバンド構造などでも出てくる

このとき、X 線が格子面( $hkl$ )によって \_\_\_\_\_ されるように見える

※ちなみに、 $n$  は 1 としてしまってもよい。なぜか?

### ● 構造因子 ~ \_\_\_\_\_ 内部の構造による寄与

X 線回折強度  $I_{hkl} \propto |S_{hkl}|^2$   $S_{hkl}$  を構造因子という

$S_{hkl} =$  \_\_\_\_\_

構造因子は回折の \_\_\_\_\_ などを与える

## 参考文献

- 中井泉、泉富士夫、粉末 X 線解析の実際 第 2 版 朝倉書店 (粉末 X 線回折に関する教科書。実用にも。逆格子の定義がイバツハの教科書と違うので注意。)
- E. N. Maslen, A. G. Fox, and M. A. O'Keefe, "International Tables for Crystallography" Vol.C Kluwer (List of all space groups)

## Appendix

### Structure of YBCO

\*data for ICSD #39359  
Coll Code 39359  
Rec Date 1991/07/10  
Chem Name Yttrium Barium Copper Oxide (1/2/3/6.9)  
Structured Y Ba2 Cu3 O6.9  
Sum Ba2 Cu3 O6.9 Y1  
ANX ABC2D2X7  
D(calc) 6.37  
Title Neutron diffraction study of HTSC ceramics YBa2Cu3O6.9  
Author(s) Nozik, Yu.Z.;Kuklina, E.S.;Schuster, G.;Weiss, L.;Matz, W.  
Reference Kristallografiya (1991), 36(¥N), 217-218  
Soviet Physics, Crystallography (= Kristallografiya) (1991), 36(¥N), 125-126  
Unit Cell 3.8210(2) 3.8826(3) 11.6720(8) 90. 90. 90.  
Vol 173.16  
Z 1  
Space Group P m m m  
SG Number 47  
Cryst Sys orthorhombic  
Pearson oP13  
Wyckoff t s r q2 h e a  
R Value 0.044  
Red Cell P 3.821 3.882 11.672 90 90 90 173.159  
Trans Red 1.000 0.000 0.000 / 0.000 1.000 0.000 / 0.000 0.000 1.000  
Comments Total SOF on at least one site differs from unity (SOF < 0.997 resp. SOF > 1.003)  
Neutron diffraction (powder)  
The structure has been assigned a PDF number (calculated powder diffraction data): 01-077-0623  
Rietveld profile refinement applied  
Structure type : YBa2Cu3O6+x(orth)  
Atom # OX SITE x y z SOF H  
Y 1 +3 1 h 0.5 0.5 0.5 1. 0  
Ba 1 +2 2 t 0.5 0.5 0.1851(4) 1. 0  
Cu 1 +2.8 1 a 0 0 0 1. 0  
Cu 2 +2 2 q 0 0 0.3557(2) 1. 0  
O 1 -2 2 q 0 0 0.1600(4) 1. 0  
O 2 -2 2 s 0.5 0 0.3776(5) 1. 0  
O 3 -2 2 r 0 0.5 0.3778(5) 1. 0  
O 4 -2 1 e 0 0.5 0 0.9 0  
\*end for ICSD #39359

← 格子定数 / lattice constants

← 空間群 / space group

← 結晶系 / crystal system

← 原子位置 / position of each atom